

公衆衛生学実習

科目責任者 小 橋 元
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

公衆衛生学は人々の健康や医療の基本となる学問であり、実習では社会と医療に関わるさまざまなテーマから1つを選択して体験学習を行う。最終日には各グループに、普段はできない貴重な体験から得た感動・学びをまとめた発表をお願いします。ぜひクラス全員でこの感動を共有してもらいたい。このような実習は学内・学外の多くの施設の協力があって初めて成り立つので、学生諸君はこうした貴重な体験ができることに感謝して、真摯な態度で実習に参加してほしい。

II. 担当教員

教授	小 橋 元
准教授	新任准教授
准教授	西連地 利己
助教	新任助教
助教	西野 義崇
先端医科学統合研究施設	春 山 康 夫
国際研究衛生室	大 平 修 二
国際研究衛生室	内 山 浩 志
総合診療科	志 水 太 郎
総合診療科	榎 原 剛
総合診療科	任 理 宏
感染制御・臨床検査学	小 銅 貴 彦
神経内科・救急医学	星 山 栄 生
国際交流支援室	高 岡 宣 子
看護学部	野 口 貴 史
臨床研究管理センター	刀 川 由 香 利
外部講師	千 代 豪 昭
外部講師	梅 澤 光 政
外部講師	天 野 託
外部講師	阿久津 敏 恵
外部講師	石 野 祐 三 子
外部講師	丸 藤 祐 子

III. 一般学習目標

社会と医療に関わる諸問題と、それらに対する社会の取り組みについて、体験学習する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 母子保健の方法について説明できる。
- 2) 地域医療について説明できる。
- 3) 職場の健康問題と産業医の業務について説明できる。
- 4) 生活習慣と健康との関連について説明できる。
- 5) 環境と健康との関連について説明できる。

- 6) 健康づくりの方法について説明できる。
- 7) 疫学, EBMについて説明できる。
- 8) 予防医学 (一, 二, 三次予防) について説明できる。
- 9) 健康診断の方法について説明できる。
- 10) 国際保健活動について説明できる。
- 11) 医療の連携とチーム医療について説明できる。
- 12) 遺伝医療, カウンセリングについて説明できる。

V. 授業計画及び方法

- (1) 1グループ6～8人の小グループに分かれて, 下記のテーマで実習を行う。
母子保健と心理, 産業保健, 精神保健, 放射線と健康, 国際保健, 女性の健康, 救急医学・ドクターヘリ, 健康診断, 運動と健康, 健康教育, 疫学研究, 漢方医学・全人的医療, 遺伝カウンセリング, 地域医療, 臨床試験と倫理審査
- (2) 1人につき1つのテーマしか選べないので, 他のグループで行っている実習内容について理解するために, 実習の最終回に各グループで行った実習内容についての発表を行う。その際, 学習内容について深く理解するため, 発表者と学生間で質疑応答を行う。
- (3) 実習で行った内容について, グループでまとめ, グループレポートとして提出する。
- (4) 各人が実習の中で最も興味を持った課題について, 個人レポートとして提出する。
- (5) 提出された個人レポートとグループレポートを用いて, 公衆衛生学実習報告書を作成する。

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1,2	6	1	月	6,7	オリエンテーション	全 教 員
3,4,5,6,7,8,9		4	木	1,2,3,4,5,6,7	各グループに分かれて実習	各 教 員
10,11,12,13, 14,15,16		5	金	1,2,3,4,5,6,7	各グループに分かれて実習	各 教 員
17,18		10	水	5,6	各グループに分かれて実習	全 教 員
19,20,21,22, 23,24		15	月	2,3,4,5,6,7	各グループの発表会, 質疑応答	全 教 員

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

実習時の学習態度, 個人レポート, グループレポート, 最終回のプレゼンテーション及び質疑応答状況, 出席状況によって総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・A V資料

教科書は指定しない

参考図書

「公衆衛生学」, 「臨床疫学」と同じもの

その他, 実習担当教員の指定図書 (オリエンテーション時に提示)

VIII. 質問への対応方法

- ・原則的には, 実習の中で対応する。
- ・担当教員に連絡し, オフィス・アワーもしくは指定された日時に質問に行くこと。

連絡先 (公衆衛生学講座: 内線番号2269)

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験内容については非公開。レポートのフィードバックは課題による。

XI. 求められる事前学習、事後学習

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）